

選者 川口孤舟

句会参加 柿崎忠彦 川口孤舟 久米五郎太 後藤とみ子 在間千恵 佐藤ただしげ

豊田穰 古田昇 星田啓子

投句・選句 熊谷くにお 小早健介 田島正己 土谷堂哉 福島正明 古川百合子

山崎亜也 山田けい子 山内天牛 渡邊盛雄

選句のみ 梅崎くすを 重枝孝岳 庄司龍平 高橋清子 橋口隆 早川允章 山本三恵

◆◆

【互選句】 ◎が付されている句は孤舟選者の選 ○は選句した会員による天(特選)

十一

引き算で生くるも良きか夏の雨 五郎太 (くす・○健・と・千・○孝・清・己・允・○正・百・三)

九点

◎夏蝶の枯山水に影こぼし くにお (孤・五・健・己・清・ゆ・百・啓・け)

七点

封をしてこころ定まる夏の雨 とみ子 (○くす・五・孝・千・清・百・啓)

◎乗り継ぎて見舞ひし帰路の夕焼雲 健介 (くす・孤・千・た・堂・○昇・盛)

帯留めの切子硝子や夏光る 啓子 (くす・た・清・己・昇・天・盛)

六点

築百年に風通り抜け大昼寝 盛雄 (隆・堂・百・昇・啓・亜)

五点

水海月叙事詩のごとく漂へり 孤舟 (健・た・百・け・三)

明易し夢の続きは明日の夜に 忠彦 (くす・堂・ゆ・○盛)

◎船で行く花嫁送る花菖蒲 ただしげ (孤・く・健・ゆ・堂)

◎緑蔭に母と子つなが糸電話 昇 (孤・と・た・堂・允)

四点

プール開きみんな河童になりきつて 孤舟 (く・と・正・昇)

恋蛸台本の無き夜となり 全 (五・健・と・允)

呂の音の多き謡や梅雨の空 五郎太 (と・啓・亜・三)

サッカードイランと株価梅雨晴れ間 健介 (忠・龍・隆・啓)

夏草や栄枯過ぎ行くシャッター街 正己 (くす・健・○龍)

行く春や故郷で酌む酒の味 ゆたか (く・と・清・正)

整然と田植ゑの苗の瑞々し 昇 (忠・孝・隆・天)

唇に載せたし紅(あか)き立ち葵 啓子 (千・孝・○龍・亜)

◎葦簀（よしず）張り時空纏ひて京町屋
懸崖に熊野水木のなだれ咲く

啓子
亜也

（孤・己・清・堂）
（く・千・己・盛）

三点

風薫る運転免許返す日に
驚草の風に戦ぎて飛ぶ構へ
花柄に白靴合わすクラス会
浮御堂湖渡りゆく川鶉かな
姿良き鮎の塩焼き侘び住まい
◎幸せの時に浸りて新茶汲む
刈り込まれ庭のすみずみ風通る
◎梅雨寒や噂話を病棟で

忠彦
孤舟
千恵
堂哉
正明
昇
百合子
天牛

（亜・け・天）
（五・孝・百）
（く・龍・亜）
（た・昇・け）
（ゆ・允・啓）
（孤・孝・正）
（千・た・天）
（孤・正・盛）

二点

◎神杉の走り根に苔青々と
濃紫陽花港に白き水脈残し
◎蛭狩真つ暗闇に手をひかれ
草笛の「初恋」奏ぶ小諸城
◎守りたき瑞穂の国の蛭の夜
句に迷ひ石橋に立ち蜻蛉来る
木下闇肩を寄せ合う羅漢様
悠久の飛鳥佳人に緑さす

くにお
とみ子
全
堂哉
昇
けい子
全
盛雄

（孤・け）
（五・ゆ）
（孤・隆）
（く・允）
（孤・天）
（忠・三）
（己・隆）
（〇昇・三）

一点

入梅や傘をさして医者通い
老鶯を林で聴くや井の頭
海紅豆揺るる空港海碧し
わが家も網に覆れ釣鐘草
小国の引き分け試合夏旺ん
祇園精舎丸暗記する夏休み
蚕豆や人それぞれの切れ目入れ
◎眠りから覚めて花咲く大賀蓮
父の日や思わぬ祝センス有り
夕闇に咽ぶ香りの洗い髪
◎花水木幼児と小犬の散歩かな
入院で退屈しのぎや花水木
年ごとに進む難聴春日かな
晴男パワー衰へ梅雨に入る
梅雨晴れや駅のホームにひと溢れ
追憶のあぢさゐの青いよ深く
皺のない白いシートや梅雨の闇

忠彦
全
孤舟
五郎太
全
とみ子
千恵
ただしげ
全
正己
ゆたか
全
全
昇
百合子
亜也
天牛

（龍）
（ゆ）
（三）
（け）
（龍）
（亜）
（五）
（孤）
（隆）
（己）
（孤）
（忠）
（正）
（天）
（忠）
（盛）
（啓）

【句 評・短 評】

十一 点

引き算で生くるも良きか夏の雨

五郎太

健介さん・・・そうですね、もう足し算は無理、引き算で穏やかに生きましょう。

とみ子さん・・・実感です。シンプルな生活になるようにと考えます。

千恵さん・・・残された限られた時間を悔いのないように使いたいと心に強く思いました。

孝岳さん・・・人生後半になって、いろいろなものを意図的に手放していく、物も人間関係においても。

素晴らしい決断です。

允章さん・・・欲張らず爽やかに生きて行こう。夏の雨のように。

百合子さん・・・同感！ 80歳を迎えて残りの人生、引き算で行こうと思ったばかり。清々しい心境です。

三恵さん・・・人生は、足していくほど豊かになると思っていました。実は同時に何かを失っているのかもしれないね。意味深な句です。「夏の雨」は、暑さを一瞬で冷ます雨なのか、しとしとと降る鬱陶しい雨なのか想像しています。

九 点

夏蝶の枯山水に影こぼし

くにお

孤舟選者・・・大型で色鮮やかな蝶が池に影を落として飛んでいる。

五郎太さん・・・巧みな下五の表現で動きも加わりました。

百合子さん・・・光景がありありと目の前に現れました。

啓子さん・・・下五の措辞が思い掛けなく、一気に句がしつとりとした風情を纏ったようです。

七 点

封をしてこころ定まる夏の雨

とみ子

五郎太さん・・・迷っていましたが、覚悟が固まったようです。季語が効いています。

千恵さん・・・もやもやしていた気持ちを文字にしたら少し落ち着きそして封をした時にこれで気持ちの整理が出来た！と安堵した気持ちでしょうか。

百合子さん・・・封をする、きっぱりとこころが定まる、味わい深い句ですね。

啓子さん・・・心に屈託を持ちながらの文。封をすることでそれにも切りがついて。季語の斡旋が嵌っています。

乗り継ぎて見舞ひし帰路の夕焼雲

健介

孤舟選者・・・恢復途上にある患者を見舞い、帰途、明日は晴れの象徴たる夕焼けに出逢えて嬉しい。

千恵さん・・・遠くにいる大切な人を見舞って帰り際に空には茜色の夕焼けの景色！きっとその人も元気になってくれるだろうと少し安堵した気持ちに。

ただしげさん・・・時間をかけて見舞いに來たが、帰路の夕焼を見るとなんとなくもの寂しさを感じた様に思われる。

堂哉さん・・・きつと、回復されたことでしょう

昇さん・・・乗り継いでまで遠路見舞いに行く程に大事な知人。病状回復が順調なので一安心。夕焼雲が希望を暗示して効果的。

帯留めの切子硝子や夏光る

啓子

ただしげさん・夏の着物姿の涼しそうな感じが読み取れる
昇さん……切子硝子が夏の陽光に輝き帯が引き立つ。夏光るが良い。
天牛さん……切子硝子が輝かですねえ！

※句会にて……季重なりです。硝子（夏） 夏光る（夏） 切子細工としたら良かったのではと、案が出ました。

六点

築百年に風通り抜け大昼寝

盛雄

昇さん……築百年の旧家の大きな広間で昼寝。風が心地良く爆睡。
隆さん……日本の家の造りは風通しを旨としている。西洋化とともに風通しも悪くなった。安心できる昼寝。「築百年風の通りの昼寝かな」でも。

百合子さん……堂々とした骨組みの日本家屋を開け放つての昼寝、現在では稀有な幸せですね。
啓子さん……なんとおおらかな景でしょう！

亜也さん……和風建築の良さを豪快に詠んだ。大昼寝の「大」がよく効いている。

五点

水海月叙事詩のごとく漂へり

孤舟

ただしげさん・海月の泳いでる様子を面白く表現している。

百合子さん……水海月のあの得も言われぬ姿を叙事詩に例えるなんてすばらしい！

明易し夢の続きは明日の夜に

忠彦

堂哉さん……楽しい夢だったのですね！どんな続きになりました？

盛雄さん……良い夢なら続きを見たいものです。

船で行く花嫁送る花菖蒲

ただしげ

孤舟選者……♪潮来花嫁さんは舟で行く♪

堂哉さん……一昔前の映画のワンシーン。

緑蔭に母と子つなぐ糸電話

昇

孤舟選者……母親と子の絆の強さが感じられる。

とみ子さん……こんなふうに育った子は、良い子に育つでしょうね。

ただしげさん……親子のほほえましい情景が感じられる。下五「糸電話」が郷愁をそそる。

堂哉さん……糸電話が懐かしいです。心和むワンシーンですね！

允章さん……仲の良い母と子の楽しいひととき。

四点

プール開きみんな河童になりきって

孤舟

（く・と・正・昇）

とみ子さん……プール開きを 楽しみにしていた子供達の歓声が聞こえてくるようです。

昇さん……待ちに待った子供のはしゃぎ振りが目に浮かぶ。明快な一句。

恋蛭台本の無き夜となり

孤舟

（五・健・と・允）

五郎太さん……この種の句には弱いのです。

とみ子さん……余計なことを言わなくても 恋蛭が全てを語っています。

允章さん……恋人との蛭狩り。楽しい夜となりそう。

呂の音の多き謡や梅雨の空

五郎太

とみ子さん・・・呂の音のことなど、作者さんに教えて頂きたくいただきました。

啓子さん・・・呂の音。謡曲での極低い声を出すのは難しいと練習を重ねていた父を想い出します。
亜也さん・・・呂（りよ）というのは低音域のことで、そう思うと、梅雨の薄暗い空が馴染みます。

サッカーとイランと株価梅雨晴れ間

健介

龍平さん・・・何せ熱し易く覚めやすしと言われ勝ちですが

隆さん・・・ホンマ。梅雨の晴れ間ですね。元上司、岡田吉夫さん（鉄鋼原料）はオールジャパンの選手だった。俺が責任を持つという男前の上官だった。

啓子さん・・・今、新聞を開けばこの3つの語彙が飛び交う。こうした時事表現もあるのだなあ、と納得しました。

夏草や栄枯過ぎ行くシャッター街

正己

龍平さん・・・強者は何時の世にも衰退期を迎える理

行く春や故郷で酌む酒の味

ゆたか

とみ子さん・・・季節は戻りましたが 情感のあるお句と思いました。

整然と田植ゑの苗の瑞々し

昇

隆さん・・・高校まで鹿児島で実家の田植ゑを手伝った。脚に蛭だけでなく、早苗の風に揺れる田園風景も脳裏にある。「苗代の早苗は青し整然と」でも。

天牛さん・・・本当に苗は瑞々しいですね。

唇に載せたし紅（あか）き立ち葵

啓子

千恵さん・・・分かります、その気持ち。花の色や他人の口紅の色って気になります。この色つけてみたいと！

龍平さん・・・発想と言うか気分の若さ。

亜也さん・・・こういうちよつとエロティックな好きです。

葦簀（よしず）張り時空纏ひて京町屋

啓子

孤舟選者・・・葦簀張りの町屋に歴史の重さを感じる。

堂哉さん・・・中七で頂きました。

懸崖に熊野水木のなだれ咲く

亜也

千恵さん・・・熊野水木を初めて知りました。直径1cm程の花でその蜜は貴重とか。切り立った崖に「なだれ咲く」様子はきっと美しい！

三点

風薫る運転免許返す日に

忠彦

亜也さん・・・ドライブ日和と思ったのか、それとも散歩日和？

天牛さん・・・爽やかですねえ！

鷺草の風に戦ぎて飛ぶ構へ

孤舟

五郎太さん・・・なんとも不思議な姿の花です。戦場で姫の助けを求める文を運ぶ鷺が途中で討たれ、その地に咲いた花とか。

百合子さん・・・鷺草を見るたびに何てぴったりな名前と。まさにこの句の通りです。

花柄に白靴合わすクラス会

千恵

龍平さん・・・賑やかな雰囲気伝わってくる情景

亜也さん・・・自分で気分を引き立てるのがますます大事。

浮御堂湖渡りゆく川鶉かな

堂哉

昇さん・・・浮御堂、湖、川鶉の組合せが日本画のようで絶妙。琵琶湖か？

姿良き鮎の塩焼き侘び住まい

正明

允章さん・・・子供の頃、釣りの好きな父が早川や酒白川で鮎を釣って来て塩焼きで食べた。

啓子さん・・・解禁直後の鮎。ご夫妻のところへ、大切な方へとお届けいただいたのでしょうか、

そのお心も併せていただきます。

幸せの時に浸りて新茶汲む

昇

孤舟選者・・・新茶を汲むにつけ、昔日の幸せな日々が思い出される。

刈り込まれ庭のすみずみ風通る

百合子

ただしげさん・すつきりさつぱりした様子が感じられる

天牛さん・・・きつと大きなお庭なんでしょうねえ！

梅雨寒や噂話を病棟で

天牛

孤舟選者・・・患者にとつて見舞客からの情報は嬉しいもの。

二点

神杉の走り根に苔青々と

くにお

孤舟選者・・・苔から生命力を貰っているのか、樹齢千年を超える古木（かむすぎ）は堂々とした

威厳がある。

濃紫陽花港に白き水脈残し

とみ子

五郎太さん・・・色の組合せが美しい。アジサイが上手く詠まれています。

蛭狩真つ暗闇に手をひかれ

とみ子

孤舟選者・・・蛭の現場は真つ暗闇の中、辿り着くまで道中が危ない。

隆さん・・・手を引かれは、孫に、あるいは、彼氏のどちらでしょう。想像と蛭の光跡のマッチ

ング。

草笛の「初恋」奏ぶ小諸城

堂哉

允章さん・・・藤村ゆかりの小諸城で「初恋」を草笛で奏でる。

守りたき瑞穂の国の蛭の夜

昇

孤舟選者・・・「朱鷺」と同じく日本を象徴する「蛭」の保存に努めてゆきたい。

天牛さん・・・ほんとうにそうです。

木下闇肩を寄せ合う羅漢様

けい子

隆さん・・・羅漢像でなく羅漢様。いいですねえ。ぐーんと愛情が高まる。

悠久の飛鳥佳人に緑さす

盛雄

昇さん・・・高松塚古墳の極彩色の壁画を連想。飛鳥ファンには世界遺産の指定が嬉しい。

一点

入梅や傘をさして医者通い

忠彦

龍平さん・・・もう《バーハシゴ》とは行かぬか？

祇園精舎丸暗記する夏休み

とみ子

亜也さん・・・百人一首でもいいけれど、一生モノになって役立ちます。

蚕豆や人それぞれの切れ目入れ

千恵

五郎太さん・・・人それぞれですね。料理番組を見てつくったとか、面白い句です。

眠りから覚めて花咲く大賀蓮

ただしげ

孤舟選者・・・弥生時代から2千年間眠っていた種子から開花した。

父の日や思わぬ祝センス有り

ただしげ

隆さん・・・父親に喜んでもらいたい子供への思いやり。

夕闇に咽ぶ香りの洗い髪

正己

允章さん・・・湯上りの洗い髪の女性に強い香水の匂い。

晴男パワー衰へ梅雨に入る

昇

天牛さん・・・齢のせいですかね。



【今後の 青葉会予定】

☆☆七月 および 八月青葉会

(誌上句会と致します)

【七月】 ○七月二十三日(木) に選句表をP C或いは郵送にてお手許にお届け致します。

ご出句締切…七月十八日(土) 中

皆様同条件にて 当季雑詠 2句〜5句のご出句を承ります。

※ご投句締め切りをお守りください。郵送の方にもP C発信と同日
にはお手許に選句表をお届けしたく存じます。

選句締切…八月 三日(月) 中といたします。

【八月】 ○八月二十七日(木) に選句表をP C或いは郵送にてお手許にお届け致します。

ご出句締切…八月二十二日(土) 中

皆様同条件にて 当季雑詠 2句〜5句のご出句を承ります。

選句締切…九月 五日(土) 中と致します。

~~~~~

## 【青 葉 会 報】

一、 梅雨明け宣言を聞くより先に、猛暑到来です。すでに熱中症の患者が増加しているとのニュースに、何度聞いても戸惑う思いが致します。青葉会のみなさまにはこの気候にも負けずにご健康にお過ごしいただきたいと念願致します。

青葉会としては、この暑さに外出も辛くなる季節到来を考え、七月、八月は誌上句会として、皆さま同じ条件のご投句二〜五句を承ることと致しました。普段は二句のご投句のかたも、どうぞ是非五句をお出しくださいます。普段句会にご出席になる皆様にも、だからと言って二句とは言わずにいつも通りにおだいたければ幸いです。

二、 六月の青葉会の句は、ご出句20名、14句でした。選句状況は、四点、三点、二点、一点と偏らずにお点が入っております。このように少しずつ点数が広く分布するようになり、句評、短評など拝見すると、句友のみなさまのそれぞれの句への思い入れや興味、想い出との呼応、意味するところ、など視点の広さが感じられるようになったような気も致しますが、皆様にはどのように感じておられるでしょうか。

今月は、ご覧のように 五郎太さんが詠まれた句 、句友お互い歳を重ねてきたことを

実感し、今後の生き方を考えるという意味でのお気持ちご賛同や、自分の思いを詠ってくれた、と句評にも。しみじみ思うことでもあり十一で最高点。おめでとうございます！次点には九点の新潟在住のくにおさん、日本俳人協会の新潟支部事務局長というお立場で忙しいながら、流石にいつも土地の歴史や自然の姿などを雰囲気を持った句に詠われます。その次は七点に、とみ子さん、健介さん、啓子さんが並びます。いつも生活の中からの優しい目で詠われるとみ子さん、健介さんは、関西の地で、知人のお祝い事、お見舞など、暖かい目を向けておられる句を良く拝見致します。いずれも高得点、おめでとうございます。

## 【関係者近詠】

孤舟選者の近詠をいただきました。

かはせみの垂直降下シャッター音

触れ太鼓緑の風を揺るがせて

滝行者最後に外すネックレス

とうすみに風の細波ありきけり

さつと炙る畳鰯や冷やし酒

~~~~~

【訃報】 大変残念なお知らせです。

西澤國護様 俳号「國護」 令和八年六月十二日ご逝去されました 享年八十歳

先日、右の訃報が、残された奥様から届きました。2022年三月、今は青葉会をお休みされている今井紀久男さんからのお誘いで、ご本人は「柄でもないが」と呟きながらご入会されたと伺いました。以来ほぼご欠席もなく、毎月一度の句会の、先んじての投句、選句も期日を違えることなくしつかりご提出いただき、当日はお洒落なお顔を出してくださいました。そうした中で、季語のこと、俳句の作法、文法などのことも学習したいとされているうち、三年目も中間を過ぎるころから、長足の進歩が見られ、句友のなかでも歓声が聴かれたほどでした。

四月の句会にご投句を頂戴したまま句会には検査入院とのことでご欠席されましたが、五月にはご投句も選句も参加しますので、と直接ご連絡を頂戴し、ご自宅からご投句も選句もお出しいただきました。

が、結果、その選句を頂戴した時の交信が最後となり、このお報せを頂戴した時には、文字通り我が目を疑う思いでございました。あまりにも急なことで、残念至極でございます。心からのご冥福をお祈り申し上げます。

追悼句を頂きたく存じます。次回七月句発表の句会報に掲載させていただきます。

句友の皆様には、國護さんのご逝去の報に接し、さまざまな想いがあるかと存じます。是非、そのお気持ちを追悼句として頂戴したく存じます。

追悼句締切日

令和八年八月三日(月)中

※丁度選句と重なる時です。一緒でも、別途、先に頂戴しても承ります。

どうぞよろしくお願い致します。

令和八年七月十日

(了)